

<p>ひとことアピール</p> <p>海外で医療活動を行う森岡医師のご協力 で、モロヤビラーン民族を対象とする口唇 裂手術を8月中旬に実施することになりま した。現地の公立病院と準備を進めてい るところです。手術に付随する諸経費、患者 と家族の滞在費、食費など約15万円が必 要です。ご協力をお願いいたします。</p>	 <p>2009年7月25日発行</p>	<p>NPO 法人ビラーンの医療と自立を支える会 (英文名略称・HANDS)</p> <p>本部：〒227-0033 横浜市青葉区鴨志田町516-11 TEL:045-962-0824 FAX:045-962-1933 E-mail: hands-mindanao@nifty.com http://homepage3.nifty.com/hands/ 郵便振替口座 00210-5-72693 (加入者名) ビラーンの医療と自立を支える会</p>
---	---	--

COWHED、ILO(国際労働機関)より助成獲得！ — HANDS が支えた10年間の振り返り —

伝統技術による組合員の収入向上を図ってきた実績が評価され、COWHED が ILO フィンランドとマイクロファイナンス(小規模貸付)事業の契約を結びました。対象者は女性です。ティナラクの織手が200人いるといわれるレイクセブにはハンディクラフトグループがたくさんあります。この中から選ばれることはとても誇らしく、組合長メルチさんのメールにはいつも「長い間支えてくれた HANDS のおかげです」という感謝の言葉が添えられています。

ビラーン民族の医療支援から始まった当会の COWHED 支援の歴史は以下のようになっています。

- ▼1999年6月総会で先住民族の女性支援が決定。将来的にはビラーンにも広げることとし、レイクセブの女性組合 COWHED(1995年設立)のハンディクラフト購入を開始。
- ▼2000年度、ティナラク織り研修事業を実施(FIDR 助成)。ティボリの若い女性が民族の伝統技術を学び技術向上を図ることを目的とする。
- ▼2000年、第1回織り手のためのマイクロファイナンス事業。35名対象。
- ▼2003年、第2回織り手のためのマイクロファイナンス事業。10名対象。
- ▼日本においてイベントやロコミで顧客が増える。収益の一部を COWHED スタッフ給与やマニラ、ダバオで開催の

見本市参加費支援などに充当。

- ▼2007年、織り物、刺繍、ビーズ製品などの実演販売と組合の拠点となる「伝統の家」完成(松尾基金助成)。

2000年、2003年のマイクロファイナンス事業は、事前



左から会計担当マイダさん、織の名手マルセラさん、ビーズの達人ドナさん、その後ろマネージャーのジェマさん、ひとりおいて組合長メルチさん<2009年6月>

研修の不足や COWHED が抱えていた負債などが原因でいずれも2-3年で頓挫し、その後は製品代前払いという形で当会による支援が続いていました。

これらの経験を経て、支え続けた結果が出そうです。ILO の事業には十分な事前研修と市場調査が組み込まれており、厳選された組合員20~30名のマネジメントをする COWHED にはコンサル

タントによるサポートが行われます。この事業が成功すれば当会の役割は製品の購入に限定できるでしょう。事業が開始される9月以降に注目したいと思います。

もう1件、COWHED が実施主体となった事業が進行中です。セブ湖の汚染防止のため、近隣4地区におけるトイレ沈殿槽建設です。「健康と収入向上」の活動がアメリカ政府の助成機関 USAID と地元助成団体に評価されたものです。

自分の足で歩き始めた COWHED は「自立を支える会」である当会にとっても大きな励みです。(山崎)